

# コミュニケーション能力の育成をめざした指導方法の工夫

—対面しての聞く・話す・伝え合う活動を通して—

高校教育研究会議

石原 美奈子<sup>1</sup>

関根 泰三<sup>2</sup>

鈴木 純子<sup>3</sup>

石川 毅<sup>4</sup>

## 要 約

高度情報化社会の現代では、特に対面してのコミュニケーションを取らなくても、コンピュータや携帯電話によるメールのやり取りなどで用件を済ますことができる。2007年1月中央教育審議会答申では、青少年の「希薄な対人関係」として「子どもへの保護者の関与の度合いの低さ」や「地域の大人の青少年へのかかわりの少なさ」などを挙げている。一方、他者の言葉や意見に耳を傾けながら自分の考えや意見を適切に表現したり、様々な集団において円滑な人間関係を築いたりする上でのコミュニケーション能力が求められている。

本研究会議では高校生のコミュニケーション能力の育成を図ることをねらいとし、対面しての聞く・話す・伝え合う活動における指導方法の工夫について研究した。検証授業を通して、グループ活動を取り入れることが重要であること、活動の中から生徒が自ら気づき、振り返りができる体験が大切であり、授業後の振り返りシートを工夫する必要があることが分かった。またコミュニケーションを深めるため、相手の話を傾聴することの大切さと、相手を知り対話をするために、質問する力が重要であることが見えてきた。

今後は、対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導展開例の一覧より作成した振り返りシート等について課題を検討しながら、さらに効果的な指導方法について研究していきたい。

キーワード：コミュニケーション能力    グループ活動    振り返り    気づき

## 目 次

I 主題設定の理由	2 対面しての聞く・話す・伝え合う活動を 取り入れた指導方法の工夫……………151
1 コミュニケーション能力を育成する必要性 ……………148	3 検証授業の実施……………154
2 コミュニケーション能力の定義について ……………148	4 検証授業の考察……………160
3 対面しての聞く・話す・伝え合う活動の 重要性……………149	III 研究のまとめ
II 研究の内容	1 研究から見えてきたこと……………161
1 川崎市立高校生のコミュニケーションの 現状の把握……………150	2 今後の課題……………161

<sup>1</sup>川崎市立商業高等学校教諭（長期研修員）

<sup>2</sup>川崎市立川崎高等学校教諭（研修員）

<sup>3</sup>川崎市立川崎総合科学高等学校教諭（研修員）

<sup>4</sup>川崎市立橘高等学校教諭（研修員）

## I 主題設定の理由

### 1 コミュニケーション能力を育成する必要性

私たちは互いに顔を合わせて挨拶や会話を交わすなど、コミュニケーションを取りながら日常生活を送っている。ところが現在、対面してのコミュニケーションの場が少なくなっている。例えば、コンビニエンスストアやスーパーマーケットでは、入ってから出るまで一言も話さずに買い物を済ませることができる。コンピュータや携帯電話の普及により会話を交わさなくても、メールのやり取りで簡単な用件を済ませることができる。中央教育審議会答申では、青少年の「希薄な対人関係」として、「子どもへの保護者の関与の度合いの低さ」や「地域の大人の青少年へのかかわりの少なさ」などを挙げている（2007年中央教育審議会答申『次代を担う自立した青少年の育成に向けて—青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について—』<sup>1)</sup>）。

しかし、重要なことを決める場面や相手についてよく知りたいときなど、相手と対面してのコミュニケーションが必要となる。『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』では「青少年のコミュニケーション能力の育成と人間関係の確立は重要な課題であり、他者の言葉や意見に耳を傾けながら、自分でしっかりと考え自分の言葉で適切に表現できる力、様々な集団の中において望ましく円滑な人間関係を築く力を身につけることが求められている。」<sup>2)</sup>と述べられている。また、社会人として求められる能力の一つとして、2003年文部科学省『職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）』<sup>3)</sup>では、表1にあるようにコミュニケーション能力が挙げられており、多様な集団・組織の中で様々な人々とコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力として示されている。

表1 職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）より

領域	能力	
人間関係形成能力	自他の理解能力	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報収集・探索能力	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力	計画実行能力
意思決定能力	選択能力	課題解決能力

このことから、場面や状況に応じて、相手の話を理解し自分の考えや意見を表現する、対面してのコミュニケーション能力を身につけることが重要であると考えられる。

### 2 コミュニケーション能力の定義について

コミュニケーションについては、多様な定義がなされている。その理由について、植村勝彦は「コミュニケーションは、生命あるものが社会的なつながりの中で生きていくうえでの基本的な現象」であり、「コミュニケーションのないところに社会は成立しなかった」が、そのためにコミュニケーションは「多様な現象や意味や機能をあわせもっており、それを研究する場合、多様な切り方が可能である」<sup>4)</sup>からだと述べている。コミュニケーションの定義も多様にあるため、コミュニケーション能力も定義が多様にある。

石井敏は「コミュニケーションの目的と場面に応じて、言語及び非言語メッセージを受信と発信の両面で適切に操作する能力」<sup>5)</sup>と述べている。松本茂は「他者との結びつきを創造・保持してい

1) 文部科学省ホームページ 中央教育審議会「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」（答申）2007年1月

2) 「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」東山書房 2006年 p.49

3) 文部科学省ホームページ「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」2003年7月

4) 植村勝彦「コミュニケーション学入門」ナカニシヤ出版 2006年 まえがき

5) 石井敏「異文化コミュニケーションハンドブック」有斐閣 2001年 p.243

く過程において、文脈や目的などに応じて判断をくだし、知識・経験・スキルなどを統合した上で、言語・非言語メッセージを理解し、文脈や目的などに応じて自らも言語・非言語を取捨選択する行為の賢明さ」<sup>6)</sup> であると定義している。また、齋藤孝は意味を的確につかみ、感情を理解し合い相手の言いたいことを的確につかむ「要約力」<sup>7)</sup> と、自分のことを一方的に伝えるのではなく、自分と相手とが互いに一つの文脈を作り上げ、あらたな展開を導いていき、より深いコミュニケーションを生み出していく「文脈力」<sup>8)</sup> である、とまとめている。

上記の研究者の定義から、コミュニケーション能力に必要なことは、コミュニケーションの目的・場面・文脈に応じた適切な対応をすることであるととらえた。またコミュニケーションは言語に限らず、頷きやジェスチャーなど非言語によるものもある。それらのメッセージを適切に活用してコミュニケーションを深めていくことが求められていると考え、本研究会議では、コミュニケーション能力を次のように定義した。

コミュニケーション能力とは、コミュニケーションの目的・場面・文脈に応じて伝え合うために、理解した言語及び非言語メッセージを適切に活用する力である。

### 3 対面しての聞く・話す・伝え合う活動の重要性

本研究会議では、コミュニケーション能力を育成するために、具体的にどのような力を身につける必要があるのかを検討した。まず、コミュニケーションの目的・場面・文脈に応じた対応をするためには、その場の状況を理解する必要がある。そのためには「聞く」力が重要である。また、理解したメッセージを適切に活用するためには「話す」力が大切である。そして対面してのコミュニケーションにおいては、双方向のやり取りがなされるため「伝え合う」力が求められる。つまり「聞く」力・「話す」力・「伝え合う」力を使う場面や機会を多く体験させる活動を展開することは、コミュニケーション能力の育成に有効であると考えた。

そこで、対面しての聞く・話す・伝え合う力を使う活動を展開するときのねらいとして、それぞれの到達目標とする力の具体的な内容を考え、以下の表2のようにまとめた。これを踏まえて、コミュニケーション能力の育成を図るために、活動の具体的な展開や指導の工夫として必要なことについて研究することにした。

表2 「聞く」・「話す」・「伝え合う」力の具体的な内容

「聞く」力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話に共感を示しながら聞くことができる。</li> <li>・5W1H、キーワードなど、話の文脈をとらえながら聞くことができる。</li> <li>・話のポイントを押さえ、質問を考えながら聞くことができる。</li> </ul>
「話す」力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に届く発声や姿勢を意識して、表現することができる。</li> <li>・相手に伝わるようにわかりやすく話を構成することができる。</li> <li>・相手にとって必要な情報を取捨選択し、工夫して表現することができる。</li> </ul>
「伝え合う」力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見と自分の意見の違いを把握しながら聞き取り、客観的に伝えることができる。</li> <li>・根拠を明確にして自分の意見を伝えることができる。</li> <li>・話のポイントを押さえて、相手に適切な質問をすることができる。</li> <li>・相手の質問に対し、わかりやすく適切に答えることができる。</li> </ul>

6) 松本茂「講座・日本語教育学 第4巻」スリーエーネットワーク 2005年 p.19

7) 齋藤孝「コミュニケーション力」岩波新書 2006年 p.10

8) 齋藤孝「コミュニケーション力」岩波新書 2006年 p.22

以上の内容を踏まえ、コミュニケーション能力を育成するために、本研究会議では研究主題を次のように設定した。

**コミュニケーション能力の育成を目指した指導方法の工夫  
—対面しての聞く・話す・伝え合う活動を通して—**

## Ⅱ 研究の内容

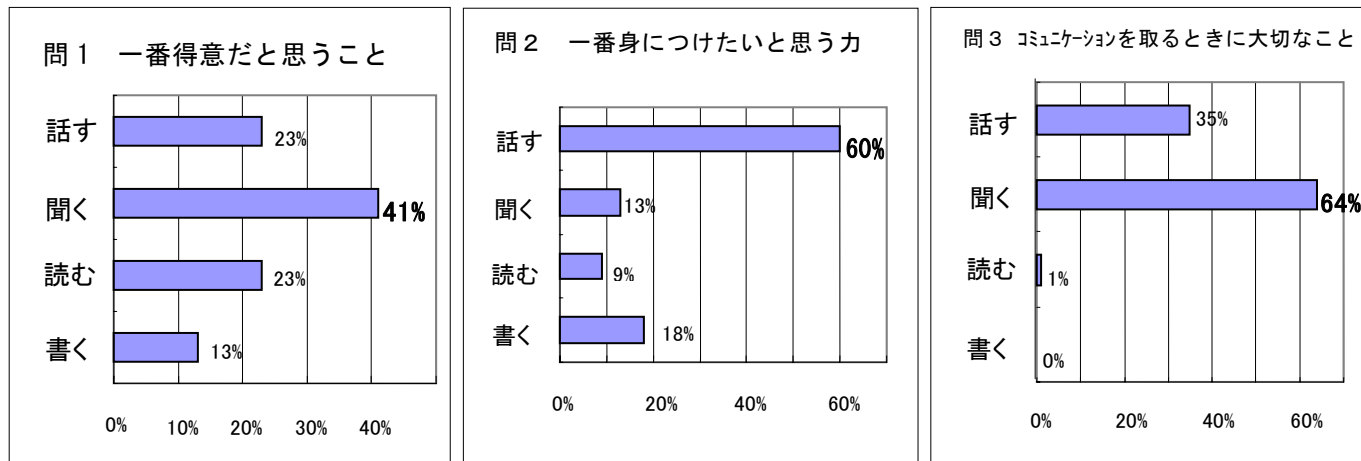
### 1 川崎市立高校生のコミュニケーションの現状の把握

川崎の市立高校生がコミュニケーションについてどのように認識しているのかを把握するために、2007年5月～6月にかけてアンケートを実施した。対象は、川崎市立高等学校4校の生徒266名（2年生152名、3年生114名）である。

#### (1) アンケートの結果

図1は、アンケートの結果をまとめたものである。アンケート結果から、次のことが特徴としてあげられる。まず市立高校生からの回答で一番多かったものは、一番得意だと思うことが「聞く」ことであり、一番身につけたいと思う力が「話す」力であった。また、コミュニケーションを取る時に大切だと思うことを尋ねたところ、過半数の生徒が「聞く」ことが大切だと考えていることがわかった。

図1 アンケートの結果



次に問1、問2の自由記述欄における主な意見を抜粋する。

#### 問1「聞く」が一番得意だと回答した生徒の理由

- ・「聞く」以外のことは普段あまりしないから。
- ・自分が受けるだけで済むから（理解しているかは別にして）。
- ・人の話を聞くことが好きだから。
- ・人の意見や話はしっかり聞くというのが大切だと思っているので、意識して聞くのが他のものに比べて得意だと思います。
- ・生きていて絶対に毎日使うものだし、私はどちらかというと聞き役なので、得意だと思う。
- ・他のことに比べて聞くことは楽だから。

## 問2「話す」力を一番身につけたいと回答した生徒の理由

- ・社会に出たとき、もっとも重要なことだと思うから。
- ・自分の思っていることを相手に伝えるには、やはりこの方法が一番効果的だと思うし、将来何らかの仕事に就くとき重要な力になりそう。
- ・普通にしゃべるには問題ないと思うけれど、とっさの時に対応できるだけの話す力の応用力がないと思うから。
- ・私は思っていることを人に表現したりはっきりと言葉に出すのが苦手で、すぐ話に詰まってしまったり本当に仲の良い人じゃないと何を話していいかわからなくなってしまう。それにバイトのときもお客さんに失礼な対応になってしまっているかもしれないからです。

### (2) 考察

「聞く」ことが一番得意であるという理由には、「人の話を聞くことが好きだから」という意見が多かった。「聞くことは自分にとって多くのことを吸収できるから」「一番大事なことは話を聞くことだと思うから」などの記述より、「聞く」ことの重要性を意識していることがわかった。一方で「耳を傾けていればいいから」「他のことに比べて聞くことは楽だから」という記述より、「聞く」ことが簡単だから得意であるにとらえている生徒もいた。

「話す」力を一番身につけたいという理由には、「社会に出ると様々な人とコミュニケーションを取る必要があり、話す力が重要になるため」という意見が多かった。また、「相手に通じる表現が分からない」「自分の考えをどう表現すれば相手に伝わるのか分からない」「話すことが苦手である」という記述もあり、苦手意識があるために話す力を身につけたいと考えている生徒もいた。

コミュニケーションを取るときには、ほとんどの生徒が「聞く」と「話す」が大切であると回答していた。「話す」ことよりも「聞く」ことが重要であるにとらえていることがわかった。

## 2 対面しての聞く・話す・伝え合う活動を取り入れた指導方法の工夫

### (1) 指導方法の工夫について

本研究会議では対面しての聞く・話す・伝え合う活動を考える際に、どのような点を工夫すればよいかを検討し、次の4点を指導方法に取り入れることにした。

- ①グループによる活動を中心とする。
- ②1時間または2時間で活動できるものを考える（ホームルーム活動などで展開できるもの）。
- ③生徒が自ら気づけるようなワークシート・振り返りシートを考える。
- ④基礎から応用へと段階を踏まえた活動内容を考える。

①については、コミュニケーションの場面や状況については様々あるが、対面してのコミュニケーションの基本は1対1のものである。そこで行われる双方向のコミュニケーションの機会を多く体験するために、少人数でのグループによる活動を多く取り入れることにした。グループ活動のメリットとして、生徒同士が発言しやすくなることが挙げられる。また自主的な活動において生徒が互いに協力し合うことは、コミュニケーション能力の育成に効果があると考えた。

②については、コミュニケーション能力の育成は、学校教育の全ての場面で行われるのが望ましいが、本研究会議では特別活動のホームルーム活動の時間を通して、1時間または2時間で取り組めるように指導展開例を検討した。

③については、生徒が授業で自分の活動の振り返りをしやすくするため、問いかけの言葉や構成を工夫した適切なワークシートを取り入れることにした。また、生徒の活動を他の生徒が観察し評価することも取り入れた。観察者としての立場から感じたことや気づいたことを、観察した相手へ

のアドバイスとしてワークシートに記入させ、その用紙を渡された生徒自身の振り返りとして使うことにした。体験から生徒が振り返り自ら気づくというプロセスは重要であり、コミュニケーション能力の育成には、自ら気づけるようにワークシートを工夫することが大切であると考えた。

④については、聞く・話す・伝え合う活動を行うときに、生徒の現状やニーズを把握し状況にあわせた指導展開をすることが必要であると考え、基本から応用へと活動内容を高める展開となるように検討した。

## (2) 対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導展開について

対面してのコミュニケーション能力の育成を図るために、聞く・話す・伝え合う活動の取り組みにおいて、基本的なことから応用する段階へと内容を深める指導展開として、各テーマの小単元を構成した。

本研究会議ではコミュニケーションの基本は、聞くことであるととらえた。小林昭文<sup>9)</sup>は、生徒が話せるようになるための必要条件として「安心して、聴いてもらえる体験」(傾聴してもらえる体験)をすることが必要だと述べている。聞き手が傾聴の姿勢で話を聞くと、話し手は相手に受け入れてもらったと感ずることができる。その体験は、相手に認められたという自信につながる。そこで聞く活動では、聞き手に受け入れてもらったという自信をもたせるとともに、話すことに対する自信をもたせることができると考え、傾聴の体験を取り入れた展開例を検討することにした。

また、話す・伝え合う活動では自分と異なる立場の相手を意識することが必要である。他者意識をもたせるためにはロールプレイング等の活動を取り入れ、対話する場面を設定することが有効であると考えた。対話とは「意思や感情の伝え合い」であり「人と人とのかかわりづくり」であると多田孝志は述べている。また対話の機能について、多田は「相互理解、相互啓発、相互扶助が生起し、創造的・発展的な関係が構築できていく。従って、対話力を高めていくことは、人間関係形成力の育成にもつながっていく」<sup>10)</sup>と提示している。「話す」「伝え合う」活動として、対話する体験を取り入れた展開例を検討した。

以上のことを踏まえて、対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導計画について、基本から応用へと小単元を構成し、各活動のねらいと主な内容を一覧にまとめたものが次の表3である。各小単元について、授業の流れや準備するものなどの項目を取り入れた指導内容と、ワークシートや振り返りシートなどをまとめた指導展開例集を作成することにした。

その中から、聞く・話す・伝え合う活動についての小単元を1時間ずつ実践し、効果的な活動の展開や指導方法を検証することにした。

<sup>9)</sup> 小林昭文「担任ができるコミュニケーション教育」ほんの森出版 2004年 p.9

<sup>10)</sup> 多田孝志「対話力を育てる」教育出版 2006年 p.35

表3 対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導展開例の一覧

	小単元	活動の内容
聞く	基本 <b>傾聴を体験する(1時間)</b> 【ねらい】 ・相手の話に共感を示しながら聞くことができる。	①3～4名の班を作る。話し手は「好きな○○」について話す。聞き手は適切でない聞き方を演じて聞き、観察者は聞き手の様子を見て感じたことをワークシートに記入する(2分で交代、全ての役を体験する) ②適切でない聞き方の問題点を確認し、傾聴について学ぶ。 ③傾聴を意識して、①と同様に活動する。 <b>検証授業を実施</b>
	↓ 基本 <b>聞いてメモをする(1時間)</b> 【ねらい】 ・5W1H、キーワードなど、話の文脈をとらえながら聞くことができる。	①メモを取るときに何に注意して聞くのかを確認する。(5W1H、キーワード等) ②新聞記事や学校行事のお知らせ等、5W1Hの入った文章を読み、ポイントをメモする。自分の言葉で再構成する。 ③6名の班を作る。班の中で一番よくまとまっているものを選び発表する。 ④情報を得るための聞き方やメモの取り方の工夫について考える。
	応用 <b>質問を考えながら聞く[他者紹介](1時間)</b> 【ねらい】 ・話のポイントを押さえ、質問を考えながら相手の話を聞くことができる。	①二人組みを作り自己紹介し合う。相手を知るために質問をし合い、理解を深める。 ②互いに自分のペアをクラスに紹介する(他者紹介) ③聞き手は紹介されている生徒の人物像がわかるか、紹介者の姿勢等について評価しながら聞き、ワークシートに記入する。 ④質問を考えながら聞くときに大切なことについて考える。
話す	基本 <b>相手に届く発声の仕方(1時間)</b> 【ねらい】 ・相手に届く発声や姿勢を意識して表現することができる。	①列ごとに班を作り、2列で1組とする。 ②教室の前と後ろとにわかれ、相手(隣席の生徒)に届くように発声し挨拶をし合う。他の生徒はその声が届いているかを判定する。 ③交代して、全員が体験する。発声や姿勢について確認し合い、自己評価する。
	↓ 基本 <b>1分間スピーチ[私のオススメを紹介する](1時間)</b> 【ねらい】 ・相手に届く発声や姿勢を意識して表現することができる。 ・相手に伝わるようにわかりやすく話を構成することができる。	①2～3名の班を作り、自分たちの「オススメ」をどのように紹介するか決める。 ②聞き手にわかりやすく伝わるよう意識して「オススメ」紹介のスピーチを行う。(1分間) 班の全員が必ず話すようにする。 ③聞き手はスピーチを聞きながら評価シートに評価をする。 ④全てのスピーチ終了後、各自振り返りシートに記入する。 <b>検証授業を実施</b>
	応用 <b>プレゼンテーション(2時間)</b> 【ねらい】 ・相手にとって必要な情報を取捨選択し、工夫して表現することができる。	⑤後日、聞き手の評価シートを見ながら、自己評価する(宿題として提出)。 ①4～6名の班を作り、中学3年生に向けて学校紹介をプレゼンテーションするための情報収集をする。 ②聞き手に伝わる表現の仕方や、わかりやすく伝えるための構成について検討する。(1時間目) ③班ごとに学校紹介のプレゼンテーションを行う。聞き手は発表の仕方やわかりやすさ等について評価シートに記入する。 ④全ての班の発表後、相互評価し合い、一番良かったものを選び、その理由も挙げる。 ⑤自己評価して、振り返りシートに記入する。(2時間目)
伝え合う	基本 <b>立場を決めて話し合う(1時間)</b> 【ねらい】 ・相手の意見と自分の意見の違いを把握しながら聞き取り、客観的に伝えることができる。 ・根拠を明確にして自分の意見を伝えることができる。	①教師が事前にテーマを設定し、それに対する賛成・反対を考えておくように指示する(例:文化祭に飲食企画を行うことについて)。 ②賛成意見と反対意見とにわかれて集合する。 ③全員が賛成・反対の理由を述べ、それぞれの意見について比較検討する。 ④賛否入れ替えの時間を取る。意見が変わった生徒は理由を述べる。 ⑤賛成・反対のどちらをクラス全体の意見とするか確認する。
	↓ 基本 <b>相手に伝わる話し方(2時間)</b> 【ねらい】 ・話のポイントを押さえて、相手に適切な質問をすることができる。 ・相手の質問に対し、わかりやすく適切に答えることができる。	①4～6名の班を作り、自分達が紹介する職業について調べる。 ②質問者と回答者(その職業の人)としての対話劇のシナリオを考える。(1時間目) ③班ごとに対話劇を発表する。聞き手は対話の様子を見てわかりやすいか評価用紙に記入し、紹介している職業は何かを当てる。 ④全ての班の発表後、聞き手からの評価用紙を参考にして、聞き手に伝わる発表ができたか自己評価する。(2時間目)
	応用 <b>ロールプレイング[模擬面接](2時間)</b> 【ねらい】 ・話のポイントを押さえて、相手に応じた適切な質問をすることができる。 ・相手の質問に対し、わかりやすく適切に答えることができる。	①事前に自己PR用紙を記入しておく。 ②面接官・受験生を演じる班と、それを観察する班とにわかれる。 ③自己PR用紙は面接官役に渡す。それを参考に質問していく。 ④受験生の人柄がわかるような質問をしているか、相手にわかりやすく適切に答えているか等、それぞれの役について、観察する班は評価する。 ⑤終了後、演じた班は自己評価を、観察班はアドバイスを振り返りシートに記入する。(1時間目) <b>検証授業を実施</b> ⑥交代して、全員が全ての役を体験する。(2時間目)

### 3 検証授業の実施

川崎市立A・B・C高等学校で対面しての聞く・話す・伝え合う活動の検証授業を実施した。

A高等学校では「聞く」ことの「傾聴を体験する」活動、B高等学校では「話す」ことの「1分間スピーチ」の活動、C高等学校では「伝え合う」ことの「ロールプレイング（模擬面接）」の活動を実施し、各々の指導方法や展開内容について検証することにした。

#### (1) 川崎市立A高等学校での検証授業

##### ①主な活動内容

小单元	活動内容	ねらい
「傾聴」を体験する (1時間)	いろいろな聞き方を体験する *ロールプレイング実施	相手の話に共感を示しながら話を聞くことができる。
対象	科目等	学級観
A高校2学年 14名 (男子2名・女子12名)	国語表現I (2学年選択科目)	比較のおとなしいが課題に意欲的に取り組む。与えられた課題に対して互いに協力しようという姿勢が見られる。

聞くことについて意識させるため、「不適切な聞き方」で聞く活動と「傾聴の姿勢で聞く」活動の二つの聞く活動を取り入れた。「不適切な聞き方」を体験させることで、聞くことには何が必要なのかを生徒に考えさせるとともに、「傾聴の姿勢で聞く」活動で、話し手・聞き手が相互に受容し合う状態を体験させ、傾聴することの大切さについて気づかせることを検証した。

##### ②授業の展開

	教師の活動	生徒の活動	支援における留意点	
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションにおける「話す」と「聞く」こととの関係を確認する。</li> <li>いろいろな聞き方を体験してみるという本時の目標を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3人（または4人）一組になって、話し手・聞き手・観察者の役を演じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを配る。</li> <li>この授業により、どんな力をつけるのか等を補足説明する。</li> </ul>	
展開	<p>①「いろいろな聞き方」を体験させる。</p> <p>②「適切な聞き方」(傾聴)を体験させる。</p> <p>*傾聴し、傾聴される体験をすることでその大切さを実感させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな聞き方を体験する。2分で交代し全ての役を体験する。</li> <li>聞き手は教師が指示した不適切な聞き方を演じながら聞く。</li> <li>話し手は自分の好きなことなどを自由に話す。そのとき聞き手の行動に対しどのように感じたかをワークシートに記入する。</li> <li>観察者は聞き手の聞き方を見て感じたことをワークシートに記入する。</li> <li>活動後、それぞれワークシートに気づいた事を記入する。</li> <li>全グループが終わったところで、不適切な聞き方についてどう思うか、また適切な聞き方とはどのようなものか考えて発表する。</li> <li>適切な聞き方(傾聴)の活動を行う。</li> <li>上記と同様に行うが、今度は聞き手が適切な聞き方(傾聴)で聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手に次の1~4の不適切な聞き方を指示する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>                     1 時々話に割り込んで別の話をする。                      2 時々、本を読んだり携帯電話をいじったりして聞く。                      3 時々、目を合わせず聞こうとしない。                      4 時々、近づいて目を見つめさわったりする。                 </td> </tr> </table> </li> <li>話し手や聞き手が目的に沿って活動しているか、評価する。</li> <li>本時の目的を理解して活動していたか確認する。</li> <li>数名の生徒に気づいたことを発表させ、共通理解し合う。</li> <li>傾聴する姿勢・FELOR*について説明する。「傾聴」がコミュニケーションにとって大切であることを意識させる。</li> </ul>	1 時々話に割り込んで別の話をする。 2 時々、本を読んだり携帯電話をいじったりして聞く。 3 時々、目を合わせず聞こうとしない。 4 時々、近づいて目を見つめさわったりする。
1 時々話に割り込んで別の話をする。 2 時々、本を読んだり携帯電話をいじったりして聞く。 3 時々、目を合わせず聞こうとしない。 4 時々、近づいて目を見つめさわったりする。				



ま と め	・本時のまとめと振り返り をさせる。	・本時全体を振り返っての感想を振り返りシートに記入する。	・発表とワークシート・振り返りシートから、生徒が「傾聴」の大切さについて実感できたか見る。
-------------	-----------------------	------------------------------	---

**\* FELOR (傾聴する時のキーワード)**

**Face** : 相手に顔を向ける                      **Eye contact** : 相手と目を合わせる                      **Lean** : 体を前に傾ける

**Open** : 心も体も開いた状態にする                      **Relax** : リラックスして聴く

※「FELOR」はピア・サポートで使用されるキーワードである。

参照:「ピア・サポート実践マニュアル」トレバー・コール著/バーンズ亀山静子・矢部文訳 川島書店 2003年

③授業を終えて

生徒の振り返りシートから主な感想を抜粋する。

**[適切でない聞き方を体験して]**

- ・携帯とかいじりながら聞くて、けっこう皆やってるけど、話してる側からするとけっこう嫌だなと思った。
- ・授業で他の人と話したり寝たりとかあるけど、それは先生側からしたらとても不快なんだなと思った。

**[傾聴 (FELOR) を体験して]**

- ・相手に「聞いてるよ」っていう感じを出す。誰かと話す時、FELORは活かせると思う。
- ・頷いたり、相手の目を見ながら話を聞くと、相手にも好印象なんだなと思いました。

**[授業を通して学んだこと・今後に生かしたいこと]**

- ・ちゃんと相手に嫌な思いをさせないように、この授業で学んだことを生かしたい。
- ・今回の授業で、人の目を見てしゃべること、相手の話をしっかり聞くのが思ったよりも重要なんだなと思いました。

振り返りシートの「頷いたり、相手の目を見ながら話を聞くと、相手にも好印象なんだなと思いました」等の記述から、傾聴の大切さについては、実感として理解させることができたと考える。傾聴の姿勢を示す「FELOR」の語句については、複数の生徒が「聞くときに大切なこと」として自分の感想の中で述べていた。

また、話し手にとって身近な話題のため、生徒自身が話しやすい状況であった。ロールプレイングでも自主的に工夫して演じている様子が見られ、生徒は積極的によく取り組んでいた。普段はおとなしく表情にあまり出さない生徒が、傾聴の活動では笑顔を見せて話したり聴いたりしており、この活動に自ら進んで参加している様子うかがえた。

不適切な聞き方の活動の際、話し手の生徒が「あの、聞いてますか?」「聞いてくれない」と聞き手の生徒の様子に苛立つような場面が見られた。何かをしながら話を聞くという聞き手の態度は不愉快であること、自分の話が伝わらないように感じるということ、生徒は実感した様子であった。

(2) 川崎市立B高等学校での検証授業

①主な活動内容

小単元	活動内容	ねらい
「1分間スピーチ」 (1時間)	「私のオススメ」を紹介する	・相手に届く発声や姿勢を意識して表現することができる。 ・相手に伝わるようにわかりやすく話を構成することができる。
対象	科目等	学級観
B高校2学年 40名 (男子3名・女子37名)	LHR	絵を描いたりデザインを工夫したりすることが好きな生徒が多く、表現活動や教科学習に対して意欲的に取り組んでいる。

1時間の授業で全員に発表を体験させるため、2～3名のグループで活動させた。発表の仕方は、実物を手にして聞き手に見せながら紹介のスピーチを行うという「Show&Tell」の方法で実施した。実物を教室で示すことができない場合は、絵に描くなどして提示してもよいと説明した。

聞き手には、話のポイントを押さえつつ聞き取るように指示し、話し手の発声や姿勢・話の内容について評価をさせ、評価用紙に記入させた。

評価をしたカードは、後にまとめて話し手に渡し、話し手の振り返りとして使うことにした。

## ②授業の展開

	教師の活動	生徒の活動	支援における留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に伝わるように話すために必要なことを確認する。</li> <li>聞き手への指示をする。</li> </ul> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 5px;">話を聞くときは話し手の良いところをみつけるようにして聞く。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチするときの注意を確認する。(発声・姿勢・話し方など)</li> <li>聞き手としての注意を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝わるように話すための注意事項①～⑤を説明する。</li> </ul> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                     ①はっきりと、前を向いて発声する。                      ②声は適度に大きく。                      ③言葉はゆっくり丁寧に。                      ④オススの理由を具体的に述べる。                      ⑤表情は明るく。                 </div>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチをさせる。</li> <li>司会進行と計時を生徒に担当させる。</li> <li>1回のスピーチが終わるごとに、評価用紙を記入させ、回収する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチを発表する。話し手は、相手にわかりやすい発表を心がける。</li> <li>スピーチを聞く。聞き手は、話のポイントを押さえつつ、話し手の良いところを見つけるように聞く。聞き終わったら評価用紙に記入し提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1回のスピーチごとの評価用紙は、回収するが、その場では発表者に渡さない。</li> <li>計時係に時間を提示させ、スピーチは1分を越えさせないようにする。1分を越えた時点で発表を終了させる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の振り返りをさせる</li> <li>本時の振り返りシートを回収する。</li> <li>各グループに聞き手からの評価用紙を渡す。評価用紙からの振り返りシート記入は宿題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業で気づいた事を2、3名が発表する。</li> <li>各自で気づいたこと、また発表の自己評価を振り返りシートにまとめ記入し提出する。</li> <li>聞き手が記入した評価用紙を見て、各グループで振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>先に発表させてから、振り返りシートを配付する。</li> <li>机間観察する。</li> <li>後日、聞き手の評価用紙を見て記入した振り返りシートを回収する。</li> </ul>

## ③授業を終えて

この検証授業では、授業の実施前に事前のアンケートを実施した。スピーチをするときに大切なことについて確認させることをねらいとし、「スピーチをするときに、相手にわかりやすくするためにどんなことに気をつければよいと思うか」を尋ねた。そこでは発声や発表者の視線の向け方、姿勢などについて考えさせた。

次に、アンケートの回答より「スピーチで気をつけること」についての主な意見を抜粋する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>目線や姿勢がどれだけよくても、声が小さく聞こえなければスピーチの意味はない。</li> <li>程よい大きさで、発音がしっかりした声が必要。いくら音量を上げても一つ一つの単語などをあいまいに言われては聴こえない。逆にすっきり通った声で話せば、さほど大きくなくても充分全体に伝わると思う。</li> <li>手元の原稿ばかり見ないで、前を向いて(顔をあげて)話す。</li> <li>背筋を伸ばしてしっかり立つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目線を聞く人の方に向ける。</li> </ul>
---	---

アンケートを集約したものを活動前に生徒に配付し、スピーチの注意点について簡単に説明をした。生徒が自主的にプリントを参考にして当日の活動に臨んだため、授業導入時での説明は短い時間で生徒に伝えることができた。

実際にスピーチを実践した後の生徒の振り返りでは、「相手に伝えたいと思う気持ち」「相手（聞き手）がいるのを意識すること」という内容が多くあった。表現するときには他者意識が必要であると生徒は気づいた様子である。また、「話すときに大切なこと」や「おしゃべりとスピーチとの違いについて」は、次のような生徒の意見があった。

#### 【話すときに大切なこと】

- ・自分がもし初めて聞いて理解できるかできないかを考えつつ、話す事を作り、大きな声ではっきりいうこと。
- ・きちんと相手に伝わるようにスピーチするには、相手の立場から見た考え方ができて、発表ができればすごくいいと思います。
- ・相手に何を伝えたいのか、はっきりと。友達感覚ではなく、公で喋っているという意識、言葉。
- ・声が大きくハキハキしていると聞いている側にとって、とても聞きやすいなあと感じました。
- ・正面を見ること。人の顔を見て話すと、相手がどんだけ理解できてるかや、聞いているかがわかりやすいから。

#### 【おしゃべりとスピーチの違い】

- ・おしゃべりは気軽だが、スピーチは相手にしっかり伝わるように内容をまとめて話さねばならない。
- ・おしゃべりは自分の話したいことを話す。スピーチは相手に伝えるために話す。
- ・スピーチは自分の伝えたい内容をしっかりとかため、相手に理解してもらえるよう、わかりやすく話していくものだと思います。
- ・緊張感と、皆がきちんと分かってくれるような話の流れの組み方とか。
- ・スピーチはいかに簡潔にわかりやすく伝えるかが重要かわかりました。

わかりやすく話すために相手を意識し、声の大きさや言葉遣いに気をつけることなど、活動のねらいである「相手に届く発声や姿勢を意識して表現する」ことについて、生徒は具体的にとらえることができていた。

また検証授業では 16 グループ発表したが、全ての発表に対して熱心に聞く姿勢が見られ、生徒は共感して話を聞くことができていたことが、次の感想からわかった。

#### 【授業の感想】

- ・聞いているのが楽しかった。
- ・皆のオススメがわかってとても楽しかった。
- ・みんな個性が溢れててとってもよかったです。みんなのことがこれまで以上に好きになりました。
- ・なんだかんだで楽しくスピーチできて良かったです。自分達が好きなものを伝えるって楽しいですね。

生徒は「好きなもの」について話したり聞いたりする活動に対して、積極的に取り組む様子が見られた。このことは、どのようなトピックを選択すれば生徒が熱心に活動に取り組めるか、教師が指導展開を工夫する上で参考となった。

また「みんなのことがこれまで以上に好きになりました」という記述にあるように、好きなものを発表し合う活動は、クラスの中に互いを受け入れる雰囲気をつくることができると考える。様々な集団の中において円滑な人間関係を築く力を身につけることは重要であるので、こうした互いに受容する姿勢が見られる活動は、コミュニケーション能力の育成に有効だと考える。

一方で「1分は短く、言葉の選択が難しい。」「1分間は思ったより短く焦りました。人に伝えるということは難しいことだと改めて思いました。」という記述から、短い時間でいかに相手にわかり

やすく伝えるか、その難しさを実感した様子がある。

なお、「Show & Tell」の発表において、グループによっては様々に工夫をこらしていた。例えば、グループ全員で紹介するマンガ本を持ち表紙を見せたり、マンガのキャラクターをお面にしておぼつたり、紹介するゲームソフトを全て板目画用紙に貼りつけて見せたりしていた。こうしたグループの工夫に対して、「小道具一つ、態度一つで伝わり具合も変わるのだと思いました。」という感想を書いている生徒もいた。さらに「初めて聞いて理解できるかできないかを考えつつ、話す事を作り」「スピーチは相手にしっかり伝わるように内容をまとめて話さねばならない」という感想などから、活動のねらいである「相手に伝わるようにわかりやすく話を構成する」こと（例えば、わかりやすく伝えるために簡潔にまとめることや表現を工夫することの大切さなど）については、理解させることができたと考えられる。

### (3) 川崎市立C高等学校での検証授業

#### ① 主な活動内容

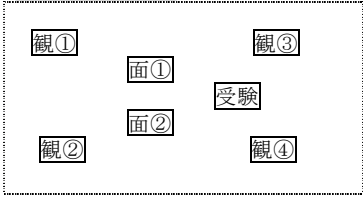
小単元	活動内容	ねらい
ロールプレイング (2時間)	模擬面接に挑戦する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話のポイントを押さえて、相手に適切な質問をすることができる。</li> <li>・相手の質問に対し、わかりやすく適切に答えることができる。</li> </ul>
対象	科目等	学級観
C高校3学年 13名 (男子4名・女子9名)	「国語表現Ⅱ」 (3学年選択科目)	全員が大学や短大への進学を希望し、公募推薦入試のため授業を選択している。おとなしい生徒が多く、自分から発信することを苦手とする者が多い。真面目なので指導者の指示には従い、課題にしっかりと取り組んでいる。

模擬面接での活動において、相手への理解に基づいて自分の意見や考えをまとめることは、相手の立場や考えを尊重する態度につながり、相手と意思や感情を伝え合うことを通して、人と人とのかかわりをつくる姿勢を身につけていくことができると考えた。

模擬面接は、ロールプレイングをする班（面接2名・受験生1名）とそれぞれの役について観察する班とに分かれて実施した。2時間目は交替して、全員がすべての役を体験した。

#### ② 授業の展開

	教師の活動	生徒の活動	支援における留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングをする班と観察する班にそれぞれどのような点を意識して活動するのかを指示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングをする班と観察をする班とに分かれる（1班3～4名）。</li> <li>・面接官役の生徒は、受験生役の生徒が事前に書いた志望理由・高校時代に頑張ったことなどの自己PR用紙を見て、質問内容を考える。</li> <li>・受験生役の生徒は質問に対して分かりやすく答えられるように準備する。</li> <li>・ロールプレイングの班は、面接官2名・受験生1名の役を交替で演じる。</li> <li>・面接1回の時間は5分とする。</li> <li>・観察班の①は面接官①を、観察班の②は面接官②を評価する。 観察班の③（④）は受験生を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングの班に次の指示をする。</li> <li>◆面接官は受験生の人柄がわかるような掘り下げる質問をすること。</li> <li>◇受験生は答えの理由を具体的に述べること。</li> <li>・観察する班に次の指示をする。</li> <li>●面接官の質問内容や聞く姿勢、受験生の答の内容や答える姿勢について評価すること。</li> </ul>

<p>導 入</p>		<p style="text-align: center;"><b>座席の配置</b></p> 	
<p>展 開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬面接を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接は5分、ワークシート記入5分、交替2分として、すべての役を演じるためこれを3回行う。(面接官①②・受験生で3役)</li> <li>・観察者は目の前にいる役の生徒の姿勢や発言内容を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接官が何を質問するかを迷っているときは、質問のキーワードになる言葉を示唆し、活動を促す。</li> </ul>
<p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を振り返らせ、各自に振り返りシートを記入させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイングをした班は、各役の立場から振り返った事や今後に向けての課題を考え振り返りシートに記入する。</li> <li>・観察した班は、観察した役に対しどのようなことにつければよいかを振り返りシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間観察する。</li> </ul> <p>※次回(2時間目)は、ロールプレイングをした班と観察した班とが役割を交代して、同様に実施する。</p>

### ③授業を終えて

生徒同士のロールプレイングによる模擬面接では、振り返りシートの記述にもあるように、生徒は相当緊張した様子が見られた。

#### [受験生役を体験して]

- ・最初は相手は同じ学生だし、平気だと思っていました。でもやっぱり1つ1つ質問されると緊張してしまい、言いたいことがうまく言えないときもあった。
- ・落ちついて考え発言するように心がける。ただしマニュアル人間にならないように、自分らしさを出せるようにする。
- ・質問に対する内容をかためははっきりと答えられるようにしたい。態度や口調、声量に気をつけたい。

教室の机や椅子の配置を、面接会場のような雰囲気を出すために実際の会場と同様に設定したため、緊張して普段のように発言することができない生徒もいた。また、自分の役を観察する者がいるという状況も、生徒に緊張を強いるものであった。教室を普段と違う状況にして改まった場面で活動させたので、生徒にとっては貴重な体験をする授業となった。こうした緊張を強いられるような場면을体験することは、コミュニケーション能力の育成に有意義であると考えられる。なぜなら、簡単に伝わらない・伝えられない体験を振り返ることで、生徒にどうすればよかったのかを気づかせることができるためである。

また面接官役を通して、相手とのコミュニケーションを取るための質問を考えながら聞くということの大変さ・重要性については、次のような生徒の記述が見られた。

#### [面接官役を体験して]

- ・ただ受験者に質問するだけかと思っていましたが、次に出す質問や質問に対して深く聞いていたり、雰囲気を考えたりとやることも多く、うまく受験生のよさを出してあげる難しさもよくわかりました。
- ・一度質問したことに対して掘り下げることの難しさを実際にやってみてわかった。5分という短い時間でも実際にやると長く感じた。

受験生の自己PRが棒読みだと面接官に訴えるものがないことや、どのような発声や姿勢が相手に好印象を与えるのかなど、面接官を体験することで初めて気づいた生徒もいた。

さらに、次のような振り返りシートの記述より、観察者の役を行うことで自分ならどうすればよ

いかを考えることができ、受験生役や面接官役を客観的に評価することができたと考えられる。

#### 【観察者からのアドバイス】

##### ○受験生に対して

- ・ 答えを用意していると明らかにわかってしまうので、どの質問に対してもちゃんと対応できるようにしておくことが大切だと思った。
- ・ 今回観察者になって、何を言うかよりも、まずはきはきした口調で相手に伝えることが好印象を与えたいと思います。

##### ○面接官に対して

- ・ 自分が質問したい事を次から次に聞くのではなく、相手の様子をうかがいながら質問をしたほうが良いと思いました。そうしないとコミュニケーションという感じがしないので。
- ・ 質問内容がいたりきたりだと困らせてしまうから、一連の流れの中で質問すべきだと思った。

客観的な観察者の立場に立つことで、活動のねらいである「話のポイントを押さえ、相手に応じた適切な質問をする」ことや「相手の質問に対し、わかりやすく適切に答える」ことについて必要なことは何か、見えてくるものがある。他者の活動を見て気づいたことを全て自分が実践できるには限らない。しかし、受験生の立場や面接官の立場について考えることは相手の立場を意識して表現するために大切なことであり、コミュニケーション能力の育成を図ることにつながると考える。

また、面接官役を体験した生徒の感想には、「一度質問したことに対して、さらに掘り下げて質問することの難しさを実際やってみてわかった」という記述が多く見られた。これは、相手とのコミュニケーションを取りながら質問を考えていくことの難しさについて、理解させることができたと考えられる。

## 4 検証授業の考察

検証授業は、川崎市立高等学校の3校において、聞く活動を1時間、話す活動を1時間、伝え合う活動を2時間、それぞれ実施した。1時間や2時間の活動の中でも、生徒はコミュニケーションの大切さや、コミュニケーションを図るために必要なことについて気づいた様子が見られた。例えば、「聞く」とときには「聞いている」姿勢を示して聞くと相手の話を理解しやすくなることや、「話す」とときには声や姿勢のほかに相手に対する意識が大切であることなどである。また、活動の中から生徒の自主的な気づきを促すために、生徒に活動を観察する役を設けるようにしたことも効果があったと考える。他者の活動を客観的に観察することで、生徒が自ら気づくことは多いことが分かった。そのためにも振り返りシートを工夫して作成することが必要である。

最初は、双方向で行われるコミュニケーションの機会を増やすために、少人数のグループ活動を中心とした授業を展開した。生徒が活動に積極的に取り組んだ理由としては、話しやすい雰囲気の中での活動やワークシートの活用、段階を踏んだ展開の導入などの工夫が挙げられる。

生徒が意欲をもって活動に取り組むようにするためには、どの学年でどのような活動を行うのか、生徒のニーズを踏まえて実施することが大切であると考えられる。例えば模擬面接のような活動は2年生や3年生で展開するほうが、生徒の活動への意欲を引き出せると考える。そのときの生徒の状況に合わせて活動を展開する必要がある。



### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 研究から見えてきたこと

研究会議で作成した対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導展開例のうち、検証授業としてそれぞれの活動から一例ずつ実践をした。その結果から次のことが見えてきた。

まず、コミュニケーション能力の育成を図るための活動を展開する中で、クラスの間関係も深まる場面が見られた。例えば「話す」活動における小単元「自分のオススメを紹介する」活動（1分間スピーチ）では、「クラスメイトの意外な一面を知ることができたのでみんながもっと好きになった」という感想を述べている生徒が多くいた。相手を知ることによって人間関係が深まり、相互受容を図ることができたと考えられる。「聞く」活動における小単元「傾聴を体験する」では、相手に熱心に話を聞いてもらう体験について「とても嬉しかった」という感想が多く見られた。「聞く」ことの重要性のほか、人間関係を深めるために相手から信頼される体験が大切であることを意識させることができたと考える。

また、聞く・話す・伝え合う活動を通して、コミュニケーションに大切なことについて生徒の気づきを促すことができた。振り返りシートの記述から、「聞く」ことについて「失礼な聴き方は話している相手にも気分を悪くするし、良くないことだなと思いました」という振り返りや、「話す」ことについて「相手に伝えようとする意識。これがなければ、立派な事を言っていようがダメなスピーチになってしまう」という振り返りが見られた。「伝え合う」ことについては、今回の活動でうまくいかなかった部分を今後さらに向上させたいという感想をもつ生徒が多くいた。活動を通して、「聞く」力・「話す」力・「伝え合う」力を使う場面で大切なことについて、生徒の気づきや自覚を促すことができたと考える。

次に、対面しての「聞く」・「話す」・「伝え合う」活動について、基本から応用へと段階を踏まえて指導展開例を作成した。クラス替えでこれから人間関係を作っていく段階なのか、ある程度人間関係が取れている段階なのかなど、コミュニケーションに関する生徒の意識や、生徒同士の人間関係について事前に把握し、クラスの状況を踏まえて指導展開をしていく必要があることが見えてきた。

さらに、検証授業を通して、コミュニケーション能力の育成には、相手を知るために質問を考える力、相手と対話をするための質問を発する力が重要であることがわかった。教科の学習に関する質問をする力のほかに、相手のことを知りコミュニケーションを図るために質問する力の育成も大切である。対面しての聞く・話す・伝え合う活動とともに、コミュニケーションを取るために質問する活動を取り入れて、指導方法を工夫していく必要があると考える。

#### 2 今後の課題

今回の研究で作成した対面しての聞く・話す・伝え合う活動の指導展開例について、さらに検討していくとともに、効果的な指導方法について今後も研究していきたい。

また伝え合う活動の検証授業の結果等から、相手とのコミュニケーションを発展させるために質問する力や、質問から対話を広げていく力が重要であり、相手に対して質問する体験を多く与えることが必要であることがわかった。今後、コミュニケーション能力の育成につながる質問する力を高めるためには、どのような指導方法を展開できるのかについても、さらに検討をしていきたい。

最後に、研究を進めるに当たり、ご支援、ご助言をくださいました講師の先生方、また校長先生を始め学校教職員の皆様に、心より感謝し厚くお礼申し上げます。

【参考文献】

- 松本茂編著『生徒を変えるコミュニケーション活動』 教育出版 1999年  
 松本茂・御堂岡潔・渡辺文夫・清ルミ・板場良久・鈴木健  
 『コミュニケーション教育フォーラム '99 コミュニケーション教育の現状と課題』  
 英潮社 2000年
- 石井敏・久米昭元・遠山淳・平井一弘・松本茂・御堂岡潔編  
 『異文化コミュニケーションハンドブック』 有斐閣 2001年
- 安居總子『「伝え合い・学び合い」の時代へ』 東洋館出版社 2003年
- 小林昭文『担任ができるコミュニケーション教育』 ほんの森出版 2004年
- 縫部義憲監修 水町伊佐男編集『講座・日本語教育学第4巻 言語学習の支援』  
 スリーエーネットワーク 2005年
- 堀 祐嗣 研究集団ことのは『聞き方スキルを鍛える授業づくり』 明治図書 2005年  
 『Career Guidance PLUS「コミュニケーション」テキスト』 RECRUIT 2005年
- 國分康孝監修 片野智治 岡田弘 加勇田修士 吉田隆江 國分久子編集  
 『エンカウンターで学級が変わる 高等学校編』 図書文化社 2005年
- 教育文化研究会編『気軽に楽しく短い時間で力のつく音声言語学習50のアイデア』  
 三省堂 2005年
- 齊藤孝『コミュニケーション力』 岩波新書 2006年
- 齊藤孝『質問力』 ちくま文庫 2006年
- 多田孝志『対話力を育てる』 教育出版 2006年
- 星野欣生『人間関係づくりトレーニング』 金子書房 2006年
- 村松賢一『対話能力を育む話すこと・聞くことの学習』 明治図書 2006年

【指導助言者】

- 立教大学経営学部教授 松本 茂  
 国立教育政策研究所初等中等教育研究部長（川崎市総合教育センター専門員） 工藤 文三  
 川崎市総合教育センター指導主事 佐藤 栄寿